

犬の催吐処置におけるロピニロールとトラネキサム酸の 有効性及び安全性の比較検討

有藤翔平[†] 竹田祐子 瀬尾和馬 上野弘道

(株)日本動物医療センター (〒151-0071 渋谷区本町 6-22-3)

(2025 年 7 月 7 日受付・2026 年 4 月 28 日受理・2026 年 8 月 15 日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/79/8/79_e145/_article/-char/ja

要 約

犬の催吐処置において、ロピニロール点眼とトラネキサム酸静脈内投与の有効性及び安全性を回顧的に比較検討した。2021 年から 2023 年に日本動物医療センターで催吐処置を実施した犬 1,161 例を対象とし、トラネキサム酸投与群 (TXA 群 581 例)、ロピニロール点眼群 (ROP 群 580 例) に分類した。さらに両剤併用に至った症例を併用群 (R&T 併用群 74 例) とした。初回催吐成功率は TXA 群 25.0%, ROP 群 70.7% であり、有害事象は TXA 群 1.9%, ROP 群 3.1% であった。R&T 併用群では 91.9% の高い催吐成功率が得られ有害事象は認められなかった。以上の結果、ROP は初回投与において TXA より高い催吐成功率を示した。また、両剤の併用は安全に実施可能であり、臨床現場における有用性が示唆された。——キーワード：犬、催吐処置、ロピニロール、安全性、トラネキサム酸。

----- 日獣会誌 79, e145～e150 (2026)